

健康のひろば

地元医師がアドバイス

— 8 —

今年で七十八歳

になる母ですが、物忘れが多く、食事を済ませて三十分もしないうちに「食事は？」と聞かれることがたまにたま。認知症でしょうか。

(風連・女性、五十二歳)

— ☆ —

最近、もの忘れするようになると訴えて受診される人が増えてきました。しかし、そのような人で、認知症と診断された人は極めて少なく、ほとんどが心配のし過ぎか、うつ病などのほかの病気によるものです。

認知症の人は自分が物忘れをするということを自覚していない(専門的には病識が無い)ため、本人が一人で病院を受診することが無いからです。

私たちは誰でも物忘れをします。健康な人の年齢に伴う物忘れと、認知症の人の物忘れとはどこが違うのでしょうか。両者の簡単な鑑別法については表を参照してください。両者の大きな違いの一つに、健常者では体験したことの一部を忘れるのに対して、認知症では体験そのものを忘れるこ

とです。たとえば、健常者では食事をしたことは覚えているが、おかずが何であったかを思い出せないことがあるのに対して、認知症の人では、食事をしたことを忘れてしまうといった具合です。

相談者のお母さんのように「食事をしたことを三十分後に忘れていた」という物忘れは認知症による物忘れが強く疑われます。またそのような物忘れがまたまあるとのことですので、できるだけ早く専門医を受診されることをお勧めします。

現在、認知症の進行を(一時的ではありませんが)食い止める薬が開発されていること、認知症の中

には「治療の可能な」認知症があることなどから、病気の軽いうちに診断し、治療を始めることが極めて大切だからです。



(片平外科・脳神経 志 外科学長・齊藤武)

治療可能な認知症も

	認知症の物忘れ	年齢に伴う物忘れ
物忘れの内容	自分の経験した出来事を忘れる	一般的な知識や常識を忘れることが多い
物忘れの範囲	体験したこと全体を忘れる 最近の出来事を思い出せない	体験の一部を思い出せない 覚えていたことを思い出せない(度忘れ)
ヒントを与えると	ヒントでも思い出せない	ヒントで思い出せることが多い
記憶障害の進行	緩徐に進行する	余り進行・悪化しない
日常生活	支障をきたす	支障なし
物忘れの自覚	自覚していない(病識なし) 深刻に考えていない	自覚しており、必要以上に心配する
判断力	低下していくことが多い	低下は見られない
学習能力	新しいことを覚えられない	学習する能力は維持されている
日時の認識	混乱していることが多い	保たれていることが多い
感情・意欲	怒りっぽい、意欲に乏しい	保たれている

(川畑信也「事例から学ぶアルツハイマー病診療」、一部改変)